

スポーツ・フォー・トゥモロー・カンファレンス 2023

～新しい、スポーツ×国際交流・協力の可能性。ムーブメントから協創へ～

開催報告

1. 概要

2022年度から新しくスタートしたSFTにおいて、2023年3月2日に「スポーツ・フォー・トゥモロー・カンファレンス 2023～新しい、スポーツ×国際交流・協力の可能性。ムーブメントから協創へ」を開催。スポーツと国際交流・協力に関心ある方向けに、新しいSFTを知ってもらう場、スポーツと開発などを一緒に考えていく場を目的として実施し、合計253名のお申込み、当日は194名の方々にご参加いただいた。

2. 開催概要

日 時：2023年3月2日(木) 13:30-17:00 (交流会 17:30-18:30)

タイトル：スポーツ・フォー・トゥモロー・カンファレンス 2023

～新しい、スポーツ×国際交流・協力の可能性。ムーブメントから協創へ～

開催方法：オンライン(zoom ウェビナー・メタバース) *ライブ配信型(登壇者来場)

対 象：スポーツ、国際交流、協力に関心のある組織・個人

詳 細：https://www.sport4tomorrow.jpnsport.go.jp/jp/news/programme/221026_2/

参加者：合計194名 (申込者：253名)

3. プログラム

第1部：

(1)開会		
13:30-13:35	◆ 開会挨拶	スポーツ庁長官
	◆ SFTの方針	スポーツ庁審議官
	◆ SFTCの概要	SFTC事務局
(2)スポーツ庁長官感謝状授与式		
14:00-14:20	<ul style="list-style-type: none"> ◆ (特活)広島横川スポーツ・カルチャークラブ ◆ 成田市 ◆ 株式会社パークフォーアス ◆ (一社)日本パラバドミントン連盟 	
(3)世界の1戦で活躍する Change Hackers		
14:20-15:05	◆ 広島発。女子サッカーチーム×国連による、ジェンダー平等や平和の取り組み	神村登紀恵氏 (広島横川スポーツ・カルチャークラブ)
	◆ 東京オリパラレガシーを活用した共生社会応援プロジェクト“PARA Beats!”	横田真里子氏 (成田市)
	◆ 理念と経営戦略から見る、剣道×国際交流ツーリズム“SAMURAI TRIP”	永松謙使氏 (パークフォーアス)
	◆ ウクライナのパラバドミントン選手を世界選手権(日本開催)!	平野一美氏 (日本パラバドミントン)

第2部：

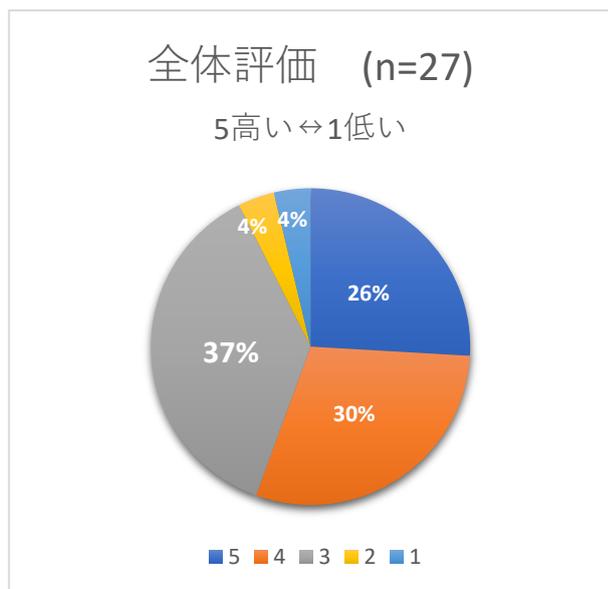
(4)スポーツと開発の国際潮流		
15:15-16:05	◆ スポーツと開発の全体像及び成果と課題～研究の視点から～	山平 芳美氏 (広島市立大学)
	◆ スポーツを通じた共生社会 ～国際的なパラスポーツの現場から～	鈴木孝幸氏 (株式会社ゴールドウイン)
	◆ スポーツによる SDGs への貢献の可視化～政策実務者の立場から～	山田悦子 (日本スポーツ振興センター)
(4)クロストーク		
16:05-16:50	◆ スポーツと開発のこれからと SFTC	永松謙使氏 山平 芳美氏 鈴木孝幸氏 山本真由美氏 (日本アンチ・ドーピング機構/SFTC 運営委員)
(5)閉会		
16:50-17:00	◆ 閉会挨拶	外務省大臣官房人物交流室 室長
(6)交流会		
17:30-18:30	◆ メタバース交流会	SFTC 事務局

4. 写真

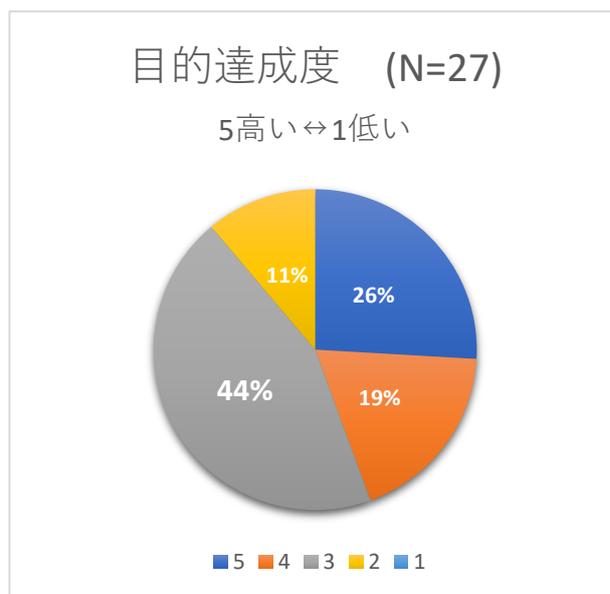


5. アンケート結果（回答数 27）

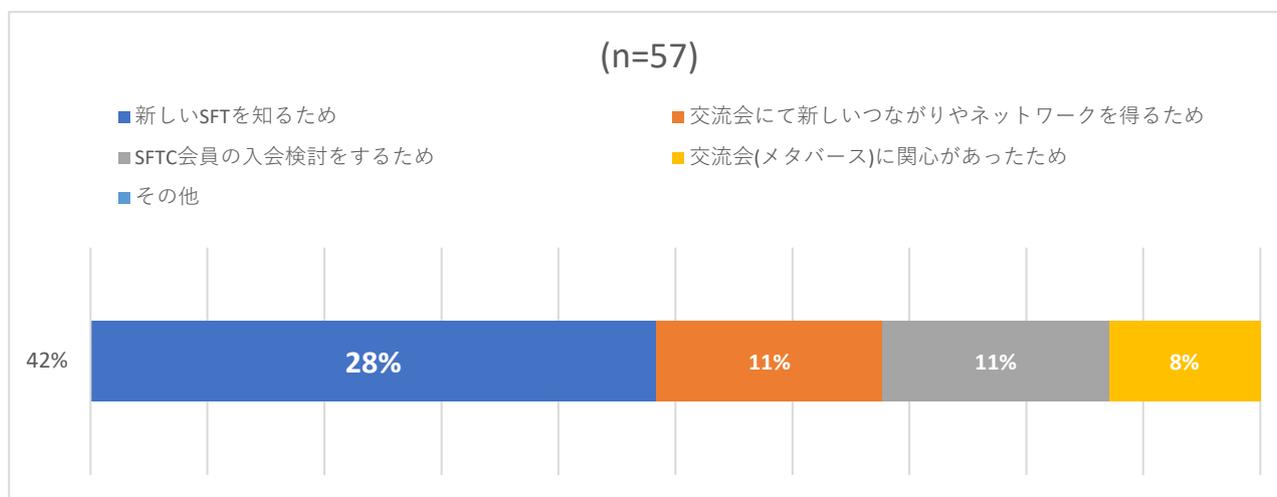
(1) カンファレンス全体評価



(2) 参加目的達成度



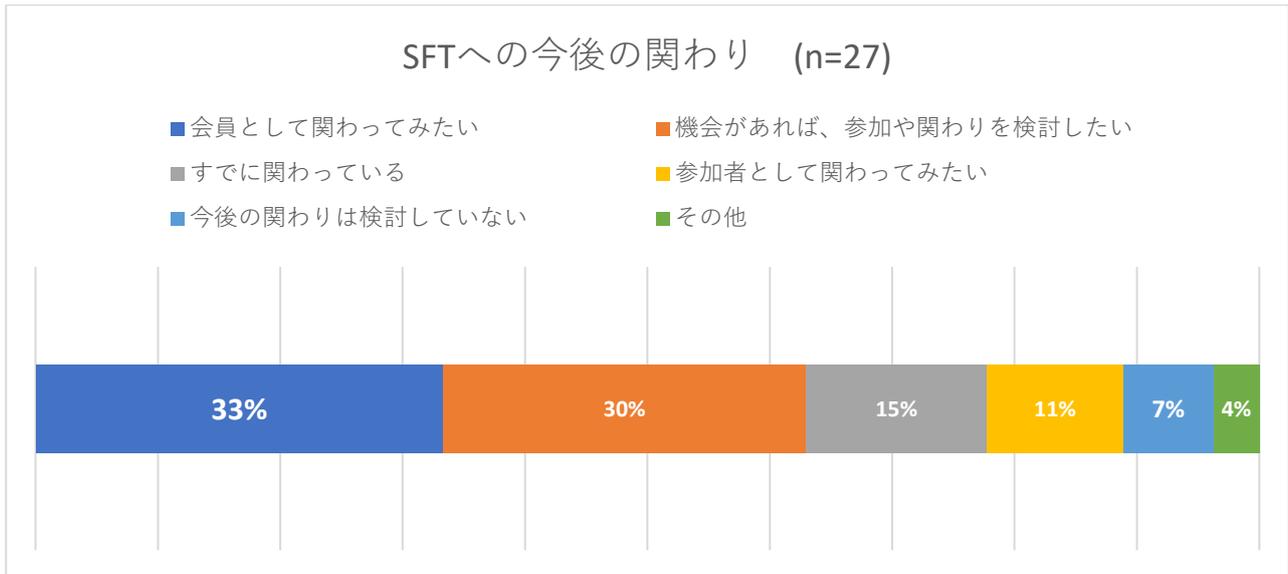
(3) 参加目的



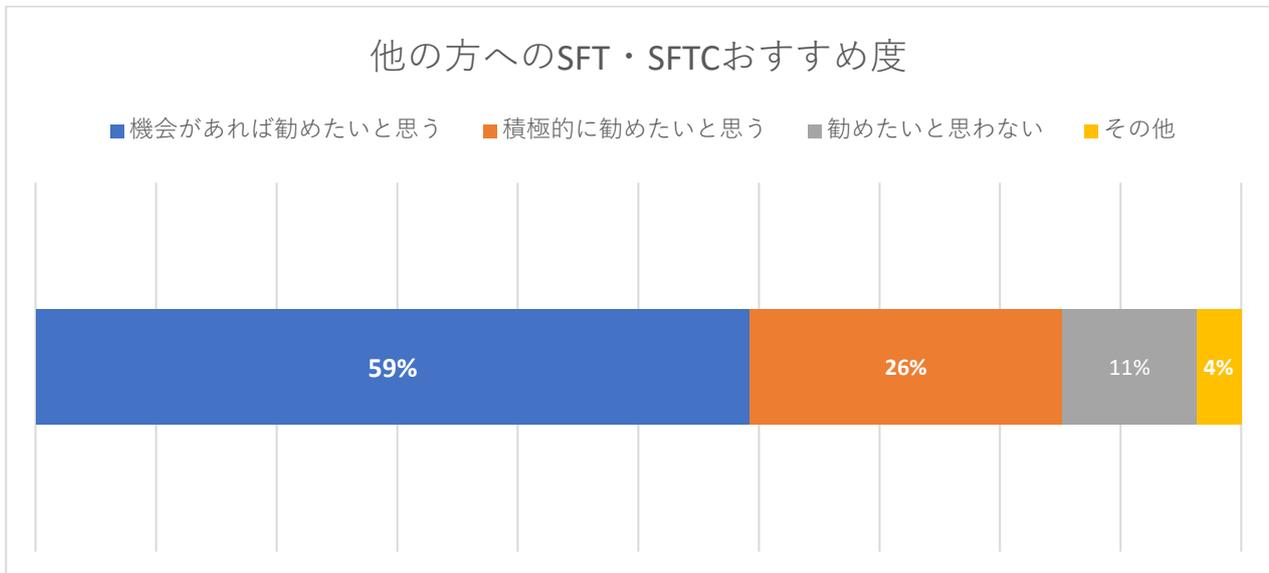
(4) 参加目的達成度に関するコメント

以前の SFT よりも、少し進化した部分があると言うのを聞いて、期待感を覚えたが、実際に始めてみないとわからないのでまだ 5 ではないなと思いました。
登壇者と情報量はリッチだったが、一方的に情報共有されているような感覚で、会員の結束や目的意識の共有という印象がなかった。この先自団体がどのような活動をすべきかの具体イメージは沸かなかった。
まだまだ具体的にどのような事業に取り組んでいくのか、コンソーシアムメンバーにどのような活動を望んでいるのかがあまり見えなかったため。
様々な方のお話を聞くことが出来、今後の自分の滑動にも活かせると思った為。
SFT の現状、今後の方向性が理解できました。
当日は業務の関係でほとんどのプログラムを視聴できなかったので 3 を選択しました。
都合上途中参加しかできなかったのが残念でした。
競技への理解も必要と思った。また 新しい発見を自身の所属団体に活かせるにはどうしたらいいかわからなかった
日本国内での事例を知り、また、最新のスポーツ庁の政策検討状況やスポーツを通じた国際協力の潮流を知ることができた。

(4) SFT への今後の関わり



(5) 他の方への SFT や SFTC のおすすめ度



(6) 感想・改善点等

国際交流ツーリズムで、外国のメディアを巻き込んでイベントの宣伝をしていくという発想に感心しました。自分たちもどんどん外国メディアと連携をとって行けたらと思います。
PARABeats の取組は、オリパラレガシーとしての活動実践例としてとても参考になった。
新しい SFT がスポーツ基本政策を元にどのように取り組んでいくのかという話が興味深かった。
剣道の体験を仕事にするという発想がすごい。スポーツを仕事にするという事は柔軟な発想が必要だな、と思いました。
「剣道×国際交流ツーリズム“SAMURAI TRIP”」のマネタイズ指向。
様々な国際協力・国際交流の形があることが分かると同時に、海外への協力を通して日本や日本人にもメリットが生まれることを改めて感じました。
SAMURAI TRIP の事例紹介から日本武道を旅行のコンテンツとして販売するニーズがあることを知り、柔道や相撲など日本の国技や発祥のスポーツコンテンツにより広げてビジネスとして展開する可能性を感じました。
地域の盛り上げ、インバウンド、国際交流などとどれも興味深く聞かせていただけました
SDGs で、スポーツによる貢献の可視化という部分はとても共感できました。
クロストークはもう少し時間があるとよかった。

山平先生のスポーツのSDGsへの指標の開発について、スポーツを通じた国際開発をしている身として、そのような視点を持って、取り組んでいかなければいけないと感じたと同時にSFTの多種多様なステークホルダーとして、そうした情報の取りまとめができれば良いのではないかと感じた。
エビデンスの重要性、これは指導者の立場としてもものすごく大事なので、自分に置き換えて今後もっと知識を深めたいと思います。海外と地元をスポーツでつなぐにはどうしたら良いか、学校のスポーツ指導者として、その指導に具体的なエビデンスがあるのか等しっかりやりたいと考えました。
取り組みの成果を評価していくことが大事だということを再確認できました。
クロストークが各団体の事例発表と、モデレーターによる質問への回答のような形になっていて、「協創」の場になっていなかったことが残念でした。
スポーツとSDGs 障害スポーツへ向けて平等に公平なスポーツの機会をみんなが享受できればいいと思った
スポーツを通じた共生社会の在り方やユニバーサル、インクルーシブ社会というと「障がい者」というワードが第一に想起されますが、今後は在住外国人やLGBTQなど社会的マイノリティーにカテゴリーされるすべての人を対象として検討する必要があると思いました。
今回は説明だけだったので、これから実際に会員間のネットワーク作り等スムーズにできるシステムを構築していただきたい。
メタバス交流会に関して、新しい取り組みであるという点は面白い、他方、この方法にしたことで交流会へのアクセシビリティが困難になってかえって交流できなかった人や団体も多かったのではないかとも思い、難しさを感じた。
メタバスは使い方に慣れるのに時間がかかったが、SFTC事務局に仕切っていただければ円卓で有意義なコミュニケーションが取れました。

(7)今後扱ってほしいテーマ等

それぞれの組織における提供できるもの、提供してほしいことなど、情報交換ができる場があるといいと思います。
情報交換会やマッチングの機会
会員間のネットワーク化等、より政策的な視点と活動的な視点が繋がるような内容になると良いと感じた。
海外と日本をスポーツでつないでいる事例をたくさん知りたいです。
具体的な活動事例紹介や、アイデアピッチなどあっても面白い。

以上